公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カミヤト凸凹文化教室		
○保護者評価実施期間	6年 4月 1日		7年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	6年 4月 1日		7年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人の保育園の敷地内に事業所があることで、保育園のクラス活動・日課を園児と一緒に過ごすことが出来る。また、当事業所をメインに利用して就学を希望する場合、保育園行事や卒園式にも一緒に参加して、就学までの移行支援をすることが出来る。	文化教室の児童と同じ学年のクラスと連携し、行事や活動を行うことで、集団の一員として生活を楽しめるよう工夫している。また、集団が苦手な子は文化教室のクラスで小集団から遊びを楽しみ、ひとりひとりのペースに合わせた集団活動を体験することが出来る。	保育園の保育士とさらに連携を深め、文化教室在籍の子どもたちの特性、支援プログラムを共有し、定期的に支援会議を開催する等の取り組みを強化していきたい。
2	未就学児と小学生以上が同じ場所で活動しているため、縦断りで過ごしている。 長期休みなどは特に、朝から異年齢での関わりが多く持てる為、小さい子は大きい子から学び、大きい子は小さい子への接し方や距離感を学ぶことができる。	保育園も含め各自が好きな場所で過ごすことが出来るため、小さい子のお世話が好きな小中学生については、保育園の子たちと一緒におやつや給食を食べたり、散歩に出かけたりをしている。クラス間を頻繁に行き来しているため、文化教室の中高生も保育スタッフに慣れ親しんでいる。	児童発達支援の子たちと保育クラスと一緒に活動する機会は多いが、小学生以上の子たちは利用時間が午後からであることが多いため、今後は保育クラスと小中学生の合同イベントなどができると良い。
3	同敷地の保育園に委託しているため、園児と同じようにバランスの取れた給食と手作りおやつを提供することが出来る。そのため、偏食などで悩む保護者のアドバイスにも、保育園に常駐している栄養士と連携して応えることが出来る。	食育活動として保育園で行っている田植え、野菜の収穫、クッキングなどに一緒に参加し、食材や調理過程について興味を持てる機会を作っている。 偏食の子であってもお友達と一緒に食事の雰囲気を楽しみ、給食に見慣れることから食事体験の幅を広げることに繋がっている。	感覚過敏で調理活動に苦手意識がある子に対しても、文化教室内の感覚遊びなどで少しずつ色々な感触に慣れ、段階を経てクラス活動を楽しめるように支援したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員基準は十分に満たしているが、次年度にスタッフ入れ替えがあったことで保護者が不安に感じているとの声があった。	開所して以来、退職以外でスタッフの入れ替えが今までなかったため、支援が充実されないのではないかと不安に感じる様子が感じられた。	凸凹は文化スタッフ、保育スタッフが一丸となって支援に当たっていることをご理解いただき、スタッフに変化があっても安心して通所頂けるようにしたい。
2	肢体不自由の子も在籍しているが、成長に合わせて使いやすい水道や、車椅子で入れるスロープがない。	開所当初からハード面ではやや使いづらいと思われる部分もあったが、マンパワーや園内のもので補っている。	ひとりひとりの体の状態や成長に合わせた椅子、踏み台など、後から設置できるものについてはスタッフで工夫して補いつつ、安全に使用できるための丈夫な補助具については専門家の助言をもらいながら改善していく。
3	特に小学生以上のプログラムについては、各々が好きな遊びに偏りがある為、クラブ活動の内容については固定化しがちである。	基本的には自由遊びを基本とし、各自が集中して取り組める遊びを提供しているが、遊びの幅を広げたり、新しい経験ができるような機会の提供がもう少しあると良い。	保育スタッフと連携してアイデアを練ったり、子どもたちにやってみたい遊びなどを聞きながら、新しい経験に繋がるものを提供していく。